

セ
ジ
ヤ
ワ
方
面
部
隊

-53-

1742

自動車第二八連隊

年	月	日	略	歴
昭和	一五	八	軍令により編成下令	
	一五	八	編成完結(南京)	
至自	一七五	一八	南京において輸送並びに警備	
	一七	一五	南京出帆	
		一九	揚子江口通過	
		一九	台湾高雄港着	
同		日	第十六軍の隷下に入る	
		四二二	高雄港出帆	
至自		五六	ジャワ島タンジヨンプリオク港上陸	
		八	ジャワ島内における輸送並びに警備	
	二〇	八一五	停戦	
	二一	五一五	スンバワ島バダス出帆	
		五二八	名古屋上陸	
		五二九	復員	

南方軍幹部候補生隊

年	月	日	略	歴
昭和	一七	一〇	二二	軍令により、編成下令
			一一	編成完結 (バンドン)
			一九	マゲラン移駐 (砲兵隊は引続き駐留)
			一一	スマラン移駐 (歩兵隊、歩兵砲隊)
			八	サラテガ移駐 (砲兵隊)
			二〇	幹部候補生隊、教育を中止
			二〇	船隻降南集結
			二〇	停隊 (スマラン)
			二一	スマラン出発
			四	レンバン上陸
			五	レンバン出発
			二二	浦賀上陸
			二八	復員

↑
 工兵隊、輸重隊は依然マゲランに位置す

南方軍野戦造兵廠		年	月	日	略	歴
		昭和	一八	九	一	軍令陸甲第八五号に依り南方軍野戦造兵廠臨時編成下令
			一〇	二	五	編成完結（ジャワ島、バンドン）
			二〇	八	一	五 停戦
			二一	六	一	八 瓜哇島タンジョンブリオク港出帆
				七	五	名古屋港上陸
				六		復員完結

シヤワ燃料工廠		年	月	日	略	歴
昭和一七	五一〇				軍令に依り編成完結(西貢)	
	五一七				移駐のため西貢港出帆	
	五二二				昭南港上陸	
	五三〇				昭南港出帆	
	六三				シヤカルタ港上陸	
	六五				スラバヤ着(シヤワ支廠着)	
一九	四一〇				軍令陸甲第二十一号により編成改正完結	
					同日よりシヤワ燃料工廠と改称す	
二〇	八一五				停戦	
二一	六一〇				シヤワ島プロポリンゴ出帆	
	六一六				レンバン島上陸	
	七一五				レンバン島出帆	
	七二五				大竹港上陸	
	七二六				復員完結	

年 月 日	略 歴
昭和 一八 一一 一六	軍令陸甲第一〇六号により編成下令
一九 一一 一〇	編成完結(スマトラ島)警備
二〇 八 一五	停戦
二一 六 一〇	タンジョンブリオク出帆
二一 六 二一	大竹上陸復員
(注)	作業隊要員は、この日以降逐次復員した。
隊長 少将 馬淵 逸雄	

独立歩兵第一五一大隊

年	月	日	略	歴
昭和	一七	一〇	三一	獨立守備歩兵第四十九大隊として瓜哇バンドン市に於て編成完結
	一八	一八		爾後チマヒに於て訓練および警備
	一九	一八		間チルボンに駐屯し同地附近の警備
	一九	七二	七二	間ジャカルタに駐屯同地附近の警備
	一九	〇九	八四	昭和十八年軍令陸甲第一〇六号同陸軍機密第四五〇号に依り獨立歩兵第一五一大隊に改編引続き前任務続行停戦となる。
		〇八		パタビヤ附近の治安維持
		〇七		ポゴル州に在りて同州警備
		〇六		パタビヤ市に於て連合軍作業に従事
		〇五		内地帰還のため瓜哇タンジョンプリアーク出帆
		〇四		宇品港上陸
		〇三		復員完結

年 月 日	略 歴
昭和一九一	昭和十九年軍令陸甲第一〇六号により独立歩兵第一五二大隊編成下令
一九一〇	編成完結（ジャワ）警備
二〇八一	停戦
二二五	ジャワ島タンジョンブリオク出発
五一五	佐世保上陸
五一六	召集解除

独立混成第二十七旅団砲兵隊	
年 月 日	略 歴
昭和一八一六一	軍令陸甲第一〇六号により編成下令
一九一一〇	編成完結（ジャワ島）警備
二〇八一五	停戦
二二 三	ジャワ島タンジョンブリオク港出帆
二二 四	宇品上陸
”	復員
”	召集解除

年	月	日	略	歴
昭和	一八	一一	一六	軍令陸甲第一〇六号により編成下令
	一八	一二	四	編成完結(ジャワ島) 警備
	二〇	八	一五	停戦
	二二	三	九	ジャワ島タンジョンブリオク港出帆
		三一	九	宇品港上陸
		三二	〇	復員

独立混成第二十七旅団工兵隊

年 月 日	略 歴
昭和一八一 一一一六	軍令陸甲第一〇六号により編成下令
一一二	六 編成完結（ジャワ島）警備
二〇	八一五 停戦
二二	三 九 ジャワ島タンジョンブリオク港出帆
三一	九 字品上陸
二〇	復員